

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3890300035
法人名	社会福祉法人 正和会
事業所名	九島グループホームやすらぎ
所在地	〒798-0098 愛媛県宇和島市蛤95番地3
自己評価作成日	平成22年8月18日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成22年9月1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

当グループホームは市内から目と鼻の先にある九島という漁業とみかん、レモン、キウイ等の柑橘類の栽培が盛んな島にあります。当施設の周囲はみかん畑で、目の前はすぐ海というのどかな風景の中にあり、晴れの日には正面の鬼ヶ城から美しい朝日が昇ってきます。島の方々は温かく、ホームのことを気にかけてくれています。ホームの特徴は入居者だけでなく職員もほとんどが島の方で、昔からの馴染みの関係ができています。また、高齢化が進む島にある唯一の高齢者施設ということで、地元の期待も大きいと感じています。「笑顔と真心でやすらぎを」という基本理念のもとで、いつも利用者と職員の笑顔が絶えない、地域からも愛される空間を創っていきたくと考えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

運営推進会議の開催日時は、会議内で話し合い「火曜日の13時30分から」と決め開催されている。運営推進会議は、利用者の生活の様子を見ていただけるよう居間で行っておられ、行事や事業所の様子を報告して、意見をうかがうようにされている。地域の方からの「敷地内の畑で野菜を栽培したらどうか」との提案をきっかけに、ご協力もいただきながら野菜作りをされていた。会議後には、利用者と一緒にお茶を飲んだり、お話して帰られる方もある。今年度からは、島内の消防団の方も参加していただけるようになった。
利用者の大半の方が島内の方であり、選挙の日には、利用者の希望で職員が投票所まで送迎されている。以前から利用している理美容院に、船に乗ってご家族と行かれる方もある。

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目：30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホームやすらぎ

(ユニット名) _____

記入者(管理者)

氏名

舟田 達也

評価完了日

平成22年 8月 19日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 法人の理念に基づいてグループホームやすらぎ独自の介護目標を作成している。 (外部評価) 法人の理念をより具体的に取り組めるよう、年度ごとに介護目標を職員で話し合い5項目作成されている。目標の中には「地域行事へ積極的に参加し、開かれた施設を目指します。」「地域のニーズを把握し、期待にこたえられるよう努めます。」と掲げて「地域からも愛される空間を作っていきたい」と地域との交流にも力を入れて取り組みをすすめておられる。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 自治会に加入し、地域との連携に努めている。また地域の幼稚園、ご近所との交流を図り、地域活動への参加に努めている。 (外部評価) 事業所の前の道は、地域の方の散歩コースになっており、散歩の途中、利用者の姿を見かけて、手を振ってくださる方やちょっと寄ってお話していただけることもある。併設のデイサービスで、島内の幼稚園児と交流会を行った際には、利用者も幼稚園児とチームを作り、一緒にゲームを楽しまれた。今後、幼稚園の園児に年賀状を書いてもらい利用者個々宛てに送ってもらえるようになっている。又、例年は、地域の敬老会も併設のデイサービスで開催されており、カラオケや民謡等を見せてもらう等、島の方々とともに楽しまれている。	管理者は、今後、地域の方達にホームにも足を運んでもらえるよう働きかけていきたいと考えておられる。利用者と島の人達との交流を拡げていけるよう、今後もさらにアイデア持ち寄り工夫を重ねていかれてほしい。又、グループホームの特性や有用性を活かした活動にも取り組まれてほしい。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 電話や訪問による相談にその都度応じている。介護教室等の開催は行えていない。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	(自己評価)	
			<p>2ヶ月に1回の運営推進会議で、事業所の取り組みや入居者の生活状況を報告する機会を持っている。地域からの事業所に対するご意見等を頂いたり、事業所からも地域の方に協力をお願いしたりしている。</p>	
5	4	<p>市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	(自己評価)	
			<p>市と圏内のグループホームが共同でグループホーム連絡会を立ち上げており、定期的な交流の機会を設けている。</p>	
6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	(自己評価)	
			<p>身体拘束禁止の研修を受け、意識付けを行っている。日中は玄関の鍵は掛けていない。</p>	
			(外部評価)	
			<p>地域包括支援センター主催で、市内のグループホーム連絡会が年4回行われており、勉強会をされ知識を深められたり、事例検討等を行い意見交換されている。</p>	
			(自己評価)	
			<p>職員は、年1回、法人で行われる身体拘束についての研修に参加されている。玄関に鈴を付けたり、利用者の居室の吐き出し窓が開くとアラームが鳴るようになっており、利用者が外に出る時には職員が気付き、一緒に付いて行くようにされている。又、職員が一人になる時間帯には、利用者に手伝いをお願いしたり、ご家族から電話してもらおう等、協力を得るようにされている。</p>	
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 法人全体として高齢者虐待防止に関する研修の機会を持っている。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 職員全体とし、この制度にふれる機会が少なく、知識が低い。研修等で学ぶ機会を設けている。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約前に、本人及び家族と十分に話しあう機会を持ち、説明を行い、納得の上で契約を行っている。	
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族の面会時、家族宅への訪問時、手紙、電話等で入居者の現状をお伝えし、入居者、家族からご意見を伺っている。意見、要望等を運営推進会議で報告し、意見を求めるようにしている。 (外部評価) 管理者は、3ヶ月に1度、利用者個別に日々の生活の様子等を手書きした手紙をご家族に送付されている。ご家族の来訪時「職員からも利用者本人の生活ぶりについての話を聞きたい」というようなご意見もあり、職員も全利用者の状態や様子の把握に努められ、ご家族とご本人の様子をお話したり、ご意見を聞いたりするように取り組まれている。	 ご家族に事業所のことをさらに知っていただけるよう、報告について工夫をされてはどうだろうか。たとえば、運営推進会議の内容を知らせたり、食事支援や日中の過ごし方、災害対策の取り組み等、事業所の取り組みを具体的に報告されて、ご家族からご意見を引き出せるように働きかけてみてはどうだろうか。

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価)	
			定期的に会議を開催し、スタッフの意見を聞く場を設けている。	
			(外部評価)	
			毎日、午後のおやつの時間等を利用して、職員間で話し合う時間を持ち、日々のケアや行事等について話し合われている。職員が、外部研修等を受講後には、持ち帰った資料を回覧して、皆で共有できるよう努めておられる。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価)	
			有資格者に対する処遇改善を図り、職場環境・条件の整備に努めている。	
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価)	
			研修への参加の機会をできるだけ確保し、自己啓発につながる支援を行っている。	
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価)	
			圏内のグループホーム連絡会、県のグループホーム連絡協議会を通じて、他事業所との交流の機会を設けている。	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価)	
			利用相談があれば、ご本人に会い、その方の現状の把握に努め、ご本人の意向や気持ちの理解に努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	(自己評価)	<p>利用相談のときに、ご家族の困っている状況を伺い、不安の解消に努めている。</p>
17		<p>初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	(自己評価)	<p>利用相談時にご本人、ご家族の話を伺い、ご家族と、ご本人に最善の方法を考えて、他事業所への紹介等を行っている。</p>
18		<p>本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	(自己評価)	<p>入居者と一緒に掃除、畑の手入れ等を行っている。</p>
19		<p>本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	(自己評価)	<p>ご家族と連絡を取り合い、共にご本人を支えていけるよう努めている。定期的な外泊を行っている方の支援をしている。</p>
20	8	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	(自己評価)	<p>島内の馴染みの場所での買い物や、島内の散歩をしながら島内の方と会話をする機会を持ち、馴染みの関係の維持に努めている。</p>
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) お互いの関係の把握に努め、その都度状況に応じてスタッフが支援している。	
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) サービス利用が終了する際は、これからの生活について話し合い、その後も相談に乗っている。	
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) ご本人の希望や意向を伺いながら、できる限り応えている。対応が困難な場合はご本人に説明をしている。意向を上手く伝えることが困難な方の気持ちを汲み取ることができるよう、情報の共有に努めている。 (外部評価) 前回の評価結果を受けて、目標達成計画に「分かりやすい評価スケールに変更する」ことを掲げて、利用者個々のアセスメントの書式を変更された。甘いものがお好きな利用者は、島のお店には売っていないようなお菓子を写真を見ながら選んでもらい管理者が島外から買って来られることもある。	現在は、排泄、入浴等、介助にかかわった職員がそれぞれのもに記録するようになってきているが、管理者は、それらをまとめて利用者個々について全体的に分かるようにしたいと話しておられた。職員が利用者にかかわる中で知り得た利用者個々の思いや意向を集め、介護計画に反映し、その人らしい暮らしを続けるための支援につなげていかれてほしい。
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 利用前の面談の際に家族、ご本人からお話を伺っている。利用後はご本人との関わりの中で、把握に努めている。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 利用者の生活リズムを把握し、各スタッフで情報の共有に努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>本人、家族の意向を確認し、1ヶ月に1回はかかりつけ医を受診し、健康面のチェックをして頂いている。そして、3ヶ月に1回職員内のサービス担当者会議にて検討し、計画の見直しを行っている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>ご家族の来訪時や電話で、ご本人のケアや生活についてご意見をうかがったり、要望を聞き取り介護計画に採り入れるように取り組まれている。</p>	
27		<p>個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>介護経過記録及び日誌、引継ぎ等にて情報を共有している。</p>	
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>ご本人や家族の希望にはできる限り応えるようにしている。</p>	
29		<p>地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>ボランティア、小学校、幼稚園との交流会や民生委員、自治会で協力を得ている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 島内の診療所に管理者が付き添い、定期的に受信して いる。入居者さんの状態によっては往診をしてもら うこともある。島外の病院を受診する際は家族に相談 し、付き添いをお願いすることもある。	
			(外部評価) 以前からのかかりつけ医で見てもらっている方もあ り、管理者が島外のかかりつけ医の受診に同行され ている方もある。病状や薬のこと等を医師と相談され る等、島内の診療所は24時間対応して下さるよう になっており、受診時にはご家族にもできるだけ来て いただけるようお願いされている。	
31		看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 当グループホームの担当看護師に定期的に訪問を受け ている。また、診療所の看護師さんにも相談に乗っ てもらいながら、入居者さんの健康管理を行っている。	
			(外部評価)	
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入居者の入院時は医療機関に情報提供を行っている。 また、適宜の訪問、連絡をすることで情報交換を行 っている。入退院時以外での定期的な連絡はとれていな い。	
			(外部評価)	
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につ いて、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 重度化した場合の指針は整備し、家族への説明は行っ ている。今まで、該当者がおらず、十分な話し合いは 行えていない。	島内の診療所は、24時間対応して下さるとい うこともあり、医師も交えて看とり支援についての勉強会 を行われたり、ご家族の心配や不安なことを聞き取る ような機会も作ってはどうか。さらに、ご本人 やご家族の重度化、終末期のあり方についての希望を うかがう等、ゆっくり話し合う機会も作ってみてはど うだろうか。
			(外部評価) ご家族には、グループホームは医療行為は出来ないこ とを伝え「家でできることを行う」ということを説明 されている。利用者の中には、最期まで「ここがええ」 と言われる方もあるようだ。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価)	
			全スタッフが定期的な研修、訓練は受けることができていない。	
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価)	
			緊急事態に対するマニュアル、緊急連絡網を作成している。地元の消防団の協力を得られるようお願いしている。年2回の避難訓練を実施している。	
			(外部評価)	
			2月の津波警報が出た際には、事業所の車で高台に避難された。その際は、地元の消防団の方の協力もあり、毛布や食料等を運んでいただいた。併設サービスと合同で避難訓練を行われたが、その前に事業所単独で夜間の火災を想定して、職員一人で、連絡、利用者の避難誘導を実際に行ってみる訓練をされた。今年、緊急通報装置やスプリンクラーを設置する予定になっている。	消防署の方からは「島ということもあり、消防車・救急車はすぐに来ることが出来ないので、地元での協力が大切」とのアドバイスがあった。現在は、事業所と併設サービスとの訓練を行っておられるが、今後は、いざという時に、地域の方々と助け合うことができるような体制作りに向けての取り組みを具体的にすすめていかれてほしい。
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価)	
			個人情報の取り扱いについては職員に周知できている。	
			(外部評価)	
			職員は、利用者の個性を尊重し、自尊心を傷つけないような言葉かけに配慮されている。居室の入口には、紙で作ったいろいろな色の花が飾っており、ご本人が希望されない場合は、付けないようにされている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価)	
			日常生活の中での関わりを通じて、入居者の自己決定を促すことができるよう支援している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 1日の生活の基本的な流れはあるが、入居者の希望や状況に合わせてできる限り対応している。	
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) ご家族とも相談しながら、ご本人の好み合わせた身だしなみができるよう支援している。	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 通常の食事は職員が作っている。準備や片付けは入居者と一緒に行っている。2ヶ月に1回はボランティアで栄養士の方が2名来られて、料理教室を実施している。 (外部評価) デイサービスの調理室で調理されたものをホームでもお出しするようになっており、衛生面のこともあって、お刺身等の生ものはお出ししないようになっている。又、生野菜はアルコールで消毒されている。事業所の畑で収穫したナスやキュウリを使って利用者や漬物を作ったり、お餅つきをされたり、2カ月に一度は栄養士が来られて料理教室を行われ、利用者と一緒におはぎや桜餅を手作りして楽しまれている。ご家族からいただいた魚をホームの台所でお刺身にして食べられることもあるようだ。食事中、演歌が流れており、利用者が歌手や曲名を教えて下さった。	現在、費用の面もあり、職員は利用者と一緒に同じものを食べることはむずかしいようである。調査訪問時、利用者が職員に「一緒に食べよう」と誘っておられるような場面も見られた。又、利用者から食材について聞かれ、職員は献立表を見て答えておられた。グループホームの意義を踏まえて、食事支援のあり方について、利用者の立場に立って工夫や配慮ができることはないか法人も含め、職員で話し合ってみてはどうだろうか。
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 個々の好みや状態に合わせた食事の提供に努めている。水分補給も同様に、個々の好みや状態に合わせて提供している。	
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 食後に口腔ケアを実施し、誤嚥の予防に努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 入居者の日々の排泄状況を把握し、その方に合った支援ができるよう努めている。 (外部評価) 職員は、利用者個々の排泄記録でパターンを把握し、時間をみて声かけや誘導を行い、トイレで排泄できるよう支援されている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 水分摂取量の把握に努めている。個々に応じて、食物繊維(すりゴマ)の摂取を促している。便秘時は下剤で対応している。	
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 入居者個々の意向は確認したいが、時間帯は設定させてもらっている。 (外部評価) 現在事業所では、午前中に入浴するようになっている。畑の草引き等で汗をかいた時にシャワーを浴びたり、浴室に時計を置いて、長風呂の方には、職員がそっと時間を告げて湯疲れしないように気配りをされている。お風呂を嫌がるような方には「ひげをそりましょう」と声かけして、入浴につなげるようなこともある。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 入居者の状況に合わせ畳等を準備している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬の用法、用量が変更される時は、薬の作用、副作用について各スタッフに伝えている。処方箋を個々のファイルに綴じている。	
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 畑の手入れ、施設周りの清掃を入居者の方をお願いしている。気晴らしに散歩や、島内巡りのドライブを行っている。	
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 島外へ行くことは困難だが、家族の協力を得ながら、外出の支援を行っている。	
			(外部評価) 道路に面したテラスで過ごされたり、事業所の畑で、職員と草引きをされる方もある。職員と島内をドライブされたり、季節によって島内の遍照山願成寺の鯨大師に甘茶をいただきに行かれることもある。島外の病院を受診する際には、道の駅に立ち寄って買い物される方もある。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) ご本人の希望や状況に応じて、ご自身で管理してもらっている。	
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 家族、ご本人の希望に応じて、手紙や電話のやり取りを支援している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>気候の良いときにはテラスでお茶ができるよう、テーブルを作成した。テラス前の花壇には花を植えたり、木の手入れを行っている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>居間には、おやつ作りを行った時の様子の写真を貼っておられた。1週間の献立表や日めくりも貼ってある。浴室、トイレの入り口には「風呂場」「トイレ」と立体的に大きく表示し、廊下のどちらからも見やすくされている。窓から海の様子がよくわかり、又、宇和島の市内が見え「以前は、あそこに居ったんよ」と教えてくれた利用者もあった。</p>	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>テラスに長椅子、テーブルを置き外でゆっくり過ごせるよう工夫している。</p>	
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>できる限り、自分の使い慣れた物を持参してもらっている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>利用者が希望する本等を管理者が借りて来られることもあり、お部屋でゆっくり読まれている方がおられる。ご自分でお部屋に洗濯物を干しておられる方もあった。</p>	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価)</p> <p>ご本人の身の回りのことやできる事は自分でやっている。アルミ製の鋏を購入し畑作業の負担を軽くしている。自分の部屋で洗濯ものが干したい方のために部屋に衣類掛けを設置している。</p>	